

人にやさしいイベント実践マニュアル

～ユニバーサルデザインの視点に立った
イベントの企画・運営マニュアル～



平成25年3月版

とくしまユニバーサルデザイン県民会議

はじめに

徳島県では、年齢、性別、障害、文化などの違いにかかわらず、だれもが住みやすいまちを実現するために、「とくしまユニバーサルデザインのまちづくり条例」を定め、整備マニュアルを策定しています。

この「人にやさしいイベント実践マニュアル～ユニバーサルデザインの視点に立ったイベントの企画・運営マニュアル～」は、多様な特性や違いを持つだれもが参加・参画して楽しみ、快適で満足のいくイベントを企画・運営することにより、「ユニバーサルデザインのまちづくり」を実践、普及することを目的に、「とくしまユニバーサルデザイン県民会議」が作成したものです。

このマニュアルを参照することで、私達ひとりひとりが、現状を検証し、できる事から実際に取り組んでいく事が大切です。そして、様々な場におけるユニバーサルデザインに「気付く」「学ぶ」「実践する」「伝える」ということを、多くの県民の皆さんに計画・実行していただきたいと思います。

従って、県や市町村が主体となって開催するイベントだけでなく、各種団体のイベント開催の参考にしていただくことは勿論、学校などの教育機関における社会学習の場にも是非活用していただき、多方面で生きたマニュアルとなっていくことを願っています。

その意味でもこのマニュアルは、今後イベントを開催した方々や参加された方々の意見を参考にして、改訂していくことにしています。ユニバーサルデザインのまち「とくしま」を作っていくのは、そこに生きる私達です。

本マニュアルの最後に、企画・準備・情報提供・会場までのアクセス・会場内の設営・実施体制についてのチェック項目を記載しております。是非ご活用ください。

(参考)

◎ ユニバーサルデザインとは

ノースカロライナ州立大学デザイン学部UDセンターの創設者のロナルド・メイス氏によって提唱された「年齢、性別、文化、身体状況など、人々が持つ様々な個性や違いを越えて、一人ひとりが互いに多様性を認め合い、思いあう心を持ち、はじめから、誰もが利用しやすいように、町や建物、製品、環境、サービスなどをつくらうとする考え方」のことです。

◎ ユニバーサルデザインの7つの原則

1. 公平性 誰にでも公平に利用できること
2. 自由性 使う上で自由度が高いこと
3. 単純性 使い方が簡単ですぐにわかること
4. わかりやすさ 必要な情報がすぐに理解できること
5. 安全性 うっかりミスや危険につながらないデザインであること
6. 省体力 無理な姿勢をとることなく、少ない力でも楽に使用できること
7. 使いやすさ アクセス〔接近すること〕しやすいスペースと大きさを確保すること

これらの原則を参考としつつ、場所や状況に応じてよりきめ細かな配慮をすると共に、実践にあたっては様々な工夫を重ねることが大切です。時には、施設の応急的処置や人的支援が必要となることもあります。どのような場合にも共通して配慮すべきことは、全てのイベント参加者の立場に立って考えるということです。

特に、以下の点を心掛けましょう。

- ① 高齢者や子ども、障害のある人、妊産婦、子ども連れ、外国人など、年齢や障害の有無、状態等に配慮する。
- ② 整備基準の画一的な適用や、バリアフリーの発想にとどまらず、「すべての人にとって」、「よりわかりやすく」「より便利に」「より安全に」「より快適に」「満足できる」といった観点に立つ。
- ③ 利用関係者の意見を聞いたり、利用当事者と共に点検を行い、さまざまな評価を通して、改善・工夫を重ねる努力を行う。

◎ カラーユニバーサルデザインについて

人間の色の感じ方は一様ではありません。遺伝子のタイプの違いやさまざまな目の疾患によって色の見え方が一般の人と異なる人が、合計すると日本に500万人以上存在します。こうした多様な色覚を持つさまざまな人に配慮して、なるべく全ての人に情報がきちんと伝わるように利用者側の視点に立ってつくられたデザインを、カラーユニバーサルデザインといいます。

カラーユニバーサルデザインに配慮することにより、色を上手に使い、全ての人に美しく感じられるカラフルなデザインを創りつつ、情報をきちんと伝えることが可能になります。

また、色が識別できないため、コントラストしか判別できない方もいます。その場合、文字や図の線と余白、文字間、行間など、余白部分が一定以上あると判別しやすくなります。

● 色の使い方

赤が見えにくい方には、黒・緑などの背景に赤で書かれた文字は非常に読みづらいので、背景色を変えられない場合は文字色を変える。

白内障では、明るい黄色は白や黄色と混同するので、背景と文字の組み合わせの色として使わない。

● 印刷物やグラフ・図の場合

色が識別できても、どれが何色で塗られているかわからない人がいるので、凡例には色名を記入する。

線は実線の色だけを変えるのではなく、実線、点線、波線など様々な線種や太さと色とを組み合わせる。

● 施設の設定や表示

案内板の表示などは明暗のコントラストのはっきりした色を使用する。塗り分けの境は、白抜きや輪郭線や境界線で強調する。

電光掲示板の赤い文字は見えにくい人がいるので暗く見える赤は使用しない。

参考：NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）

<http://www.cudo.jp>

目 次

I 企画・準備

- (1) イベント内容の企画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 会場の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 宿泊の確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (4) 参加者の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

II 事前の情報提供

- (1) イベント情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- (2) アクセス情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- (3) 各種サービスの情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

III 会場までのアクセス

- (1) 公共交通機関・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (2) 徒歩・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- (3) 自家用車・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- (4) 案内表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

IV 会場内の設営

- (1) 出入口までの敷地内通路・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (2) 出入口・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- (3) 受付・案内所・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- (4) 会場内移動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (5) トイレ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- (6) 必要スペースの確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- (7) 案内表示・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- (8) 当日配布パンフレット等・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

V 実施体制

- (1) 非常時の対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
- (2) スタッフ・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
- (3) 次回開催へ向けての取組・・・・・・・・・・21

障害のある方などの特徴と、基本的な配慮事項について・・・・・・・・23

点訳・手話通訳・要約筆記等関係団体連絡先・・・・・・・・44

チェックリスト・・・・・・・・・・・・・・・・49